第 1 章　横浜の水と緑の特徴

1. 横浜らしい魅力ある水・緑環境

(1)　横浜の水・緑環境の特徴

本市は 370 万市民を擁する大都市でありながら、市民生活の身近な場所に樹林地や農地、公園、せせらぎ、水辺など、変化に富んだ豊かな水・緑環境を有しています。

●広域的に連続する水・緑環境

本市の地形は、東部を下末吉台地、中央部を多摩・三浦丘陵が縦断し、西部は相模原台地により形成されています。

また、鶴見川、境川、柏尾川といった複数の都市を流れる河川や、多摩・三浦丘陵の丘の緑などによって、広域的にも連続した水・緑環境を有しています。

■横浜市周辺の地形

出典「日本の地理 3 関東地方」共立出版株式会社　1998

●多くの河川と特徴ある緑からなる水・緑環境

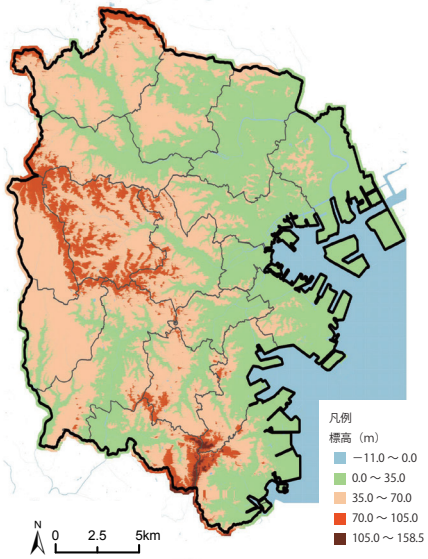
市内には多くの河川があり、鶴見川、帷子川、入江川、滝の川、大岡川、宮川、侍従川が東京湾に注ぎ、柏尾川を支川に持つ境川が相模湾に注いでいます。

この中で鶴見川流域と境川流域（柏尾川流域を含む）を除く、４つの流域（帷子川流域、入江川・滝の川流域、大岡川流域、宮川・侍従川流域）と直接海域に注ぐ小流域の集まりは、横浜市内で完結した流域となっています。また、河川にはたくさんの水路が注いでおり、これらの河川や水路が住宅域の奥深くまで入り込み、水路ー河川ー海域とつながり市民が身近に感じることができる水の軸となっています。

河川の源流・上流域から中流域にかけては、まとまりのある樹林地、農地があるこどもの国周辺地区、三保・新治地区、川井・矢指・上瀬谷地区、大池・今井・名瀬地区、舞岡・野庭地区、円海山周辺地区、小柴・富岡地区、都田・鴨居東本郷・菅田羽沢周辺地区、上飯田・和泉・中田周辺地区、下和泉・東俣野・深谷周辺地区といった地区があり、これらを「緑の 10 大拠点」としています。

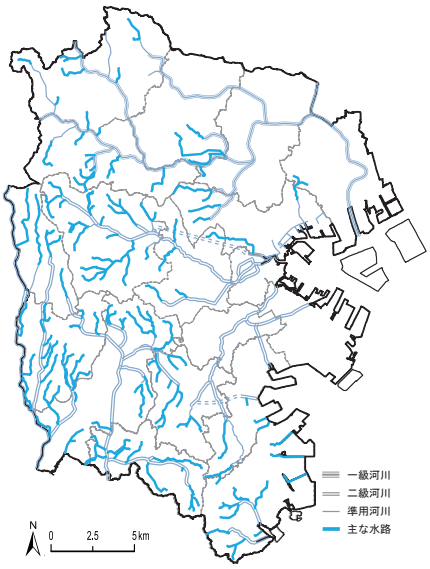
また、郊外部と都心臨海部周辺との間のまとまった緑の軸を「市街地をのぞむ丘の軸」、臨海部のまとまった緑の軸を「海をのぞむ丘の軸」としています。

■横浜市の地形



■主な河川と特徴ある緑

■河川に注ぎ込む水路



●市民生活の身近にある多様な水・緑環境

本市では、まとまりのある樹林地や農地が市街化調整区域から市街化区域に入り込むように存在しており、市街地でも多くの樹林地や農地を見ることができます。また、「緑の 10 大拠点」などにある谷戸を源流として、幾筋もの水路や河川が市街地を縫うように流れ、海域までつながっています。

このように、河川を軸として、森、丘、海へと連なる流域の中で、多くの樹林地や農地が残されているほか、市街地に公園や街路樹、親水拠点、小川アメニティ、せせらぎなどが配置され、多様な魅力ある水・緑環境が市民生活の身近な場所に存在しています。

緑あふれる河川の上流部

谷戸と里山

散策を楽しめる市民の森

市街地に隣接したまとまりのある農地

様々なレクリエーションができる公園

緑に親しみながら遊べる公園

市街地に残る緑

市街地の水と緑に親しめる空間

季節を彩る街路樹

商業施設の魅力を高める緑化

市内を流れる河川

水辺の景色を楽しめる公園

●市民活動により支えられてきた横浜の水・緑環境

市内ではこれまで様々な場所で水・緑環境に関わる市民活動が活発に行われてきました。地域の公園や市民の森などの樹林地、水辺では愛護会が結成され、日ごろの清掃活動、点検などを愛護会が担い、その活動が地域コミュニティの形成にもつながっています。河川や海域、樹林地、池などでは、生物多様性の保全や水質の改善などの環境活動も行われ、古民家などがある公園などでは地域の歴史文化を伝える活動も行われています。また、農地での援農や地産地消を広げる市民活動も行われています。このように横浜の水・緑環境は、様々な場所で多くの市民、NPO、事業者などの活動により支えられています。

公園愛護会による美化活動

水辺愛護会による清掃活動

市民の森愛護会による管理作業

公園の管理運営委員会による田植え

市内農家による朝市

農業者と地域住民との連携による援農活動

よこはま水環境ガイドボランティアによる下水道施設の案内

森づくりボランティアによる保全活動

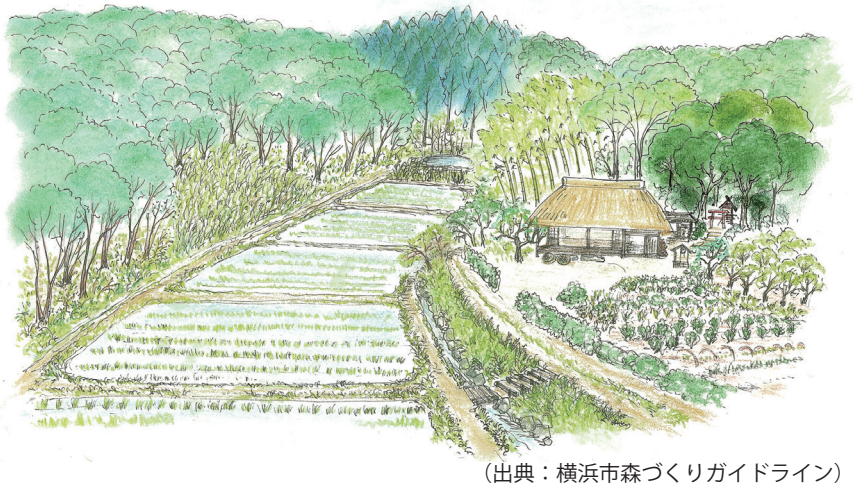
地域住民による緑化活動

●横浜の魅力のひとつとなっている里山景観

本市では丘陵地が複雑に入り組んだ地形が多く見られ、「谷戸」と呼ばれています。そこでは古くから農業が営まれてきました。谷戸ではその地形をいかした水田、農業用のため池及び水路が作られてきました。また、丘陵地は竹林や雑木林となり、肥料、燃料及び生活用品を生産する場として活用されました。人々が谷戸の環境と密接に関わりながら生活することで、多様な生き物が生育・生息する特徴的な環境が生まれました。

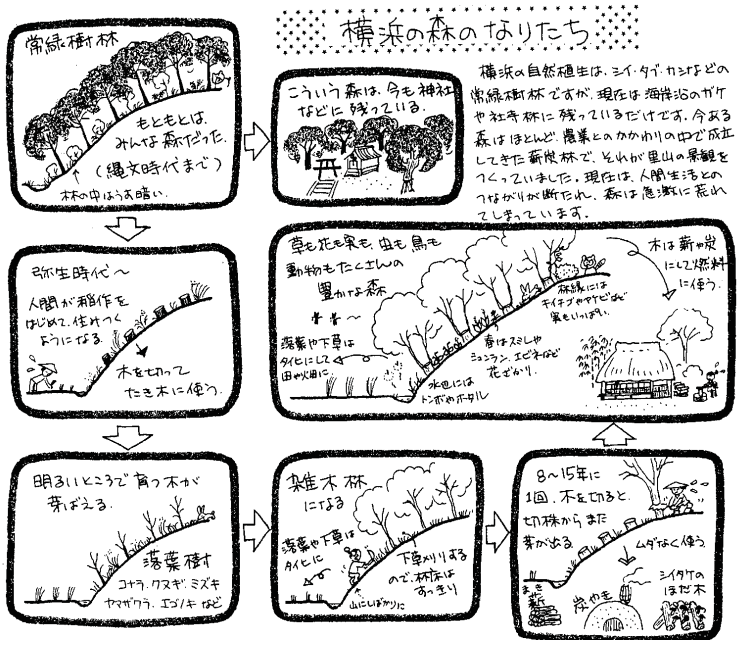
このような人と自然が持続的に関わる谷戸の環境は「里山（里地里山）」と呼ばれ、谷戸の織り成す里山景観は横浜の魅力のひとつといえます。現在は市民の生活様式の変化により、人と里山との関係は変化し、また、都市化が進むなかで、旧来の里山の多くは姿を消していますが、市内に残る数少ない里山は土地所有者や様々な市民活動によって支えられ、横浜の歴史と文化を伝える貴重な環境となっています。

■かつての横浜の里山のイメージ



（出典：横浜市森づくりガイドライン）

■横浜の森のなりたちと里山



（出典：横浜市森づくりガイドライン）

Column コラム 横浜の植生と生き物

本市は日本のほぼ中心の太平洋岸に位置しており、また丹沢山地や箱根火山のように標高1,000mを超えるような地域もないことから、温帯の平地から低山地に生育・生息する生き物が中心となっています。

1　横浜の植生

横浜の自然植生はスダジイ、タブノキ、シラカシなどの常緑広葉樹からなる林が最も代表的ですが、市域に占めるそれらの面積は小さく、大部分は人為の影響を受けた二次林となっています。現在の代表的な植生はコナラ、クヌギ、エゴノキなどの落葉広葉樹であり、こうした環境の中に、気候や地史を反映した「里山を代表する植物」といえるカタクリやカントウカンアオイなどの植物も分布しています。

常緑広葉樹林

落葉広葉樹林

2　横浜の生き物

●陸域の生き物

横浜市陸域の生物相・生態系調査（平成11年）」において、確認種数は全体で1,046種となっています（聞き取り調査による確認種を除く。以下同様）。このうち全体の7割を超える796種が樹林地で確認されています。また、市街地（緑の多い住宅地を含む）においても全体の5割を超える566種が確認されており、市街地における小さな緑地が、小型動植物にとって重要な生育・生息環境にあることが分かります。

ホオジロ

チョウトンボ

トウキョウダルマガエル

アマモ

●河川・海域の生き物

1980年代以降、下水道の整備や事業所からの排水規制などにより河川の水質が大幅に改善されたこともあり、かつて横浜の川でみられた多くの生き物が戻ってきています。本市が2011（平成23）年度に実施した市内河川の6水系での生物調査では、合計354種の生き物が確認され、海とのつながりを持つ回遊性の種類（アユやエビ類の数種など）は増加傾向にありました。また2012（平成24）年から2013（平成25）年に河口・海岸域の7地点、内湾3地点で行った海域調査では、合計656種の生き物が確認されています。

3　外来種の状況

近年、外来種（自然分布範囲以外の地域または生態系に、人為の結果として持ち込まれた生き物）が生態系や人間、農作物へ被害を及ぼすケースが増えています。このような被害を及ぼす外来種のうち、特に影響が大きいと考えられる生き物は、外来生物法（正式名称：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律、2005（平成17）年施行）によって「特定外来生物」として指定されており、飼育や運搬などが禁止されています。

特定外来生物のうち、アライグマについては、神奈川県アライグマ防除実施計画に基づき対策を実施しています。また、タイワンリスについては、捕獲器の貸し出しなどの支援を実施しています。

タイワンリス

(2)　都市の発展と水・緑環境

●江戸・明治・大正・昭和時代の埋立てと水辺

横浜駅西側や関内・関外など横浜の都心臨海部にあたる地域は、江戸時代に新田・塩田開発により埋め立てられた地域です。

海岸線沿いでは、開港以降の港づくり、戦後の工業団地建設のための埋立てなどが行われてきました。現在でも、埋立地との境には運河・河川が残され、都心臨海部にも水辺が多く残っています。

●開港とともに発展し、育まれた港町文化、街並みと公園

横浜は、1859(安政 6) 年の横浜港開港とともに発展した都市です。国際貿易や外国人の居留などにより、異国情緒ある港町文化を育み、現在も、関内や山手などで港町横浜の趣きが漂う街並み、景観が維持されています。

わが国最初の洋式庭園である山手公園や、外国人居留地であった港の見える丘公園、関東大震災からの復興で生まれた山下公園など、歴史とともに育まれてきた公園が多くあり、全国から多くの人々が訪れています。

観光名所である山下公園

鉄道の遺構を残す汽車道

風格ある街路樹が並ぶ日本大通り

異国情緒あふれる山手 111 番館

●都市の発展とともに歩んできた水・緑環境

水環境については、人口の増加と都市の発展に合わせ、事業者への排水規制や、下水道の整備・普及による河川や海域の水質の改善が進みました。また、せせらぎ緑道として水辺空間を創出する取組も進みました。

緑については、特別緑地保全地区などの緑地保全制度による樹林地の保全が進んだほか、市独自の制度である農業専用地区などによる農業振興策や農地の保全が進みました。また、法令に基づく緑化、開発提供公園の制度による緑の確保、街路樹の整備、港北ニュータウンに代表される緑の計画的な配置など、都市の中の緑の保全・創出が進みました。

さらに、親水や自然環境に配慮した河川改修など、住環境や生き物の生育・生息環境に配慮した整備も進みました。

水質改善に寄与する下水道処理施設

保全された樹林地

保全された水田

開発とともに整備された公園

良好な住環境をつくる街路樹

親水や自然環境に配慮した河川

●新たなまちづくりの中での水・緑環境

みなとみらい 21 地区や横浜駅周辺などでは新たなまちづくりが進み、特徴的な水と緑の景観が創出されました。都心臨海部では、水際線に特色ある緑地が配置され、それぞれの緑地がプロムナードで結ばれるなど、都心臨海部全体で緑のネットワークが形成されつつあります。

緑のある都心臨海部

海をのぞむ臨港パーク

2. 多面的な機能

水と緑は、都市環境を形成する主要な要素であり、様々な機能があります。

●生物多様性保全機能

樹林地や農地、水路、河川などの水・緑環境は人との関わりのなかで多様な環境が作られ、その結果、多種多様な生き物が生育・生息する環境が作られてきました。これらの水・緑環境が、健全に保たれ、まとまりやつながりを持つことにより、生物多様性の保全が期待できます。

●環境保全機能

樹木や水面などは、水分の蒸発により空気を冷やす機能があります。河川に沿って涼しい風が引き込まれるほか、市街地に緑を増やすことで、風の道となる連続的な水・緑環境が形成され、排熱抑制が高まり、ヒートアイランド現象を緩和する効果があります。また、街路樹などの市街地の緑は、緑陰空間を形成し、都市の中での貴重なクールスポットとなります。

さらに、良好な水・緑環境は CO_2 吸収などの効果も期待されており、地球温暖化の軽減にも寄与しています。

●景観形成機能

郊外部では、まとまりのある樹林地が生み出す自然豊かな景観や、畑や水田といった農地と樹林地などが一体となった里山景観を形成しています。市街地では、特徴的に残る斜面緑地などの樹林地や公園、建物の敷地内の植栽、街路樹などの緑が魅力ある景観を形成しています。また、市内に流れる川や海などにより、潤いある景観が生み出されています。このように、水・緑環境には良好な景観を形成する機能があります。

●生産基盤機能

農地は、農畜産物を供給する貴重な生産資源です。横浜の農地・農業は、都市にありながら比較的大きな規模を維持しています。また、消費地に近いという利点をいかし、消費者のニーズに合う新鮮で安心な農畜産物の地産地消を担う機能を持っています。さらに、市民利用型農園や農体験の場などに利用することでも生産基盤機能を発揮します。

●貯留・涵養機能

樹林地や農地などの緑には、雨を大地にしみ込ませ、蓄えることで、河川や地下水の水量を豊かにし、健全な水循環に寄与する機能があります。

●防災・減災機能

樹林地や農地などの緑は、貯留・涵養機能により、雨水のピーク流出量を抑制して浸水被害を軽減する大きな役割を担っています。

震災時などにおいて公園や農地は、避難地、被災後の救援・救護の拠点などの貴重なオープンスペースとなります。また、公園、農地、河川及び緑化された道路は、避難路や火災の延焼を防止する機能があります。

●スポーツ・健康機能

公園や海などでの屋外スポーツの魅力は、緑に囲まれた快適な空間やきれいな海で様々なスポーツを楽しめることです。水・緑環境はプロスポーツの観戦や競技スポーツ、健康づくりのウォーキングなど、様々な場面でスポーツを楽しむことができる場となります。さらに市民が様々なスポーツに関わる場や機会を増やしていくことは、市民の健康的な生活へとつながります。

●文化・芸術、レクリエーション機能

魅力的な水・緑環境は、文化・芸術を育み、また、散策や花見、子供の遊び場などレクリエーションの場となる機能があります。

●環境教育機能

樹林地や農地、水辺などは、市民が自然とのふれあいを体験できる場と機会を提供する機能があります。また、水・緑環境は地域の環境や人々との関わりから成立しているものであり、地域の歴史や風土、文化を伝える機能を持っています。

このようなことから、水・緑環境は次世代を担う子供達をはじめ、多くの市民が自然とのふれあいを楽しみながら、その大切さに気づき、水・緑環境をまもり、育てる行動につながるよう、環境教育や環境活動に取り組む場としても期待できます。

●コミュニティ形成機能

身近にある公園や水辺などは、子供の遊びや散策だけでなく、地域内外の市民の活動の場としても機能し、コミュニティ形成空間としての機能を持っています。また、市民が利用する農地についても、農作業を通した利用者同士のコミュニケーションの場として機能しています。

●都市の価値・魅力を高める機能

都市の中の魅力的な水・緑環境により、美しい市街地が形成されることで、観光客をはじめとした市内外からの人の流れが生まれ、賑わいの創出や不動産価値の向上など、都市全体の価値・魅力の向上につながります。